2019年3月期　決算説明会

前岳　荒川小屋南から

TOKUSHU TOKAI PAPER

特種東海製紙株式会社

目次

- 会社概要 (p1)

2019年3月期連結決算概要
- 期末連結業績実績 (p2)
- 営業利益の増減要因(2019年3月) (p3)
- セグメント情報 (p4)

2020年3月期通期連結業績見通し
- 2020年3月期連結業績見通し (p5)
- 営業利益の増減要因(2020年3月期見通し) (p6)

資本政策について
- 資本政策

第四次中期経営計画の進捗
- 過去の連結数値と今中計(NEXT10) (p7)

「基盤事業の強化・変革」進捗状況
- 産業素材事業Gの基盤強化・変革①～③ (p8)
- 特殊素材事業Gの基盤強化・変革①～② (p11)
- 生活商品事業Gの基盤強化・変革 (p13)

成長戦略
- 研究開発の方向性 (p14)
- 偽造防止用紙 (p15)
- 高機能(高級)パッケージ戦略 (p16)
- ファンシーペーパー・保護紙のアジア展開 (p17)

環境関連事業セグメントについて
- 環境関連事業セグメント (p18)
- ウィスキー事業の開始 (p19)
- (株)レックスのリサイクルビジネスの拡大 (p20)

会社概要

➢ 社名	特種東海製紙株式会社
➢ 本店所在地	静岡県島田市向島町4379番地
➢ 設立	2007年4月
➢ 代表者	代表取締役社長　社長執行役員　松田　裕司
➢ 資本金	11,485百万円
➢ 従業員数(連結)	1,490名(2019年3月)
➢ 事業内容	紙・パルプの製造、加工、販売
➢ 工場	三島、島田、岐阜、その他

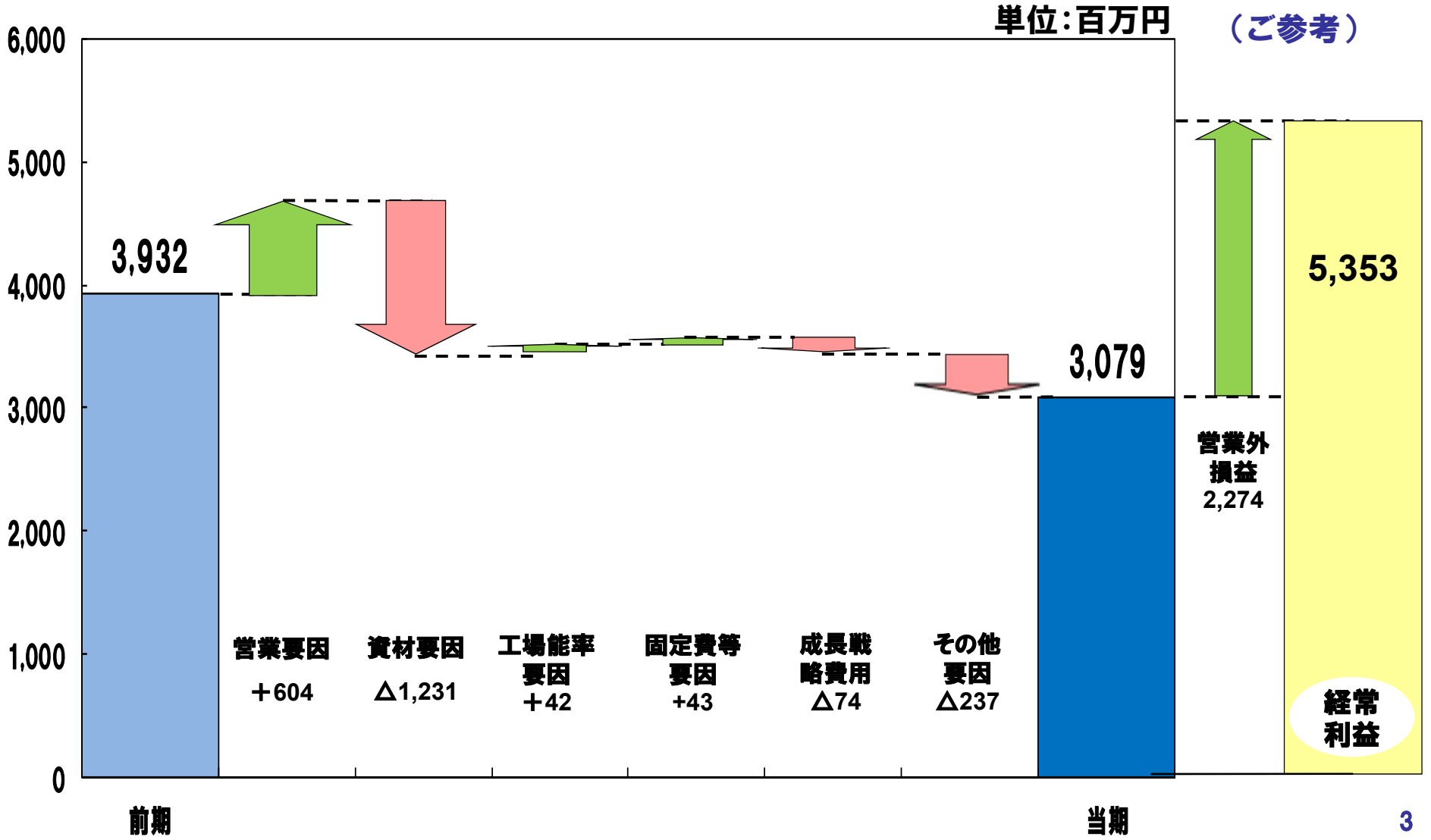
2019年3月期
連結決算概要

期末連結業績実績

（単位：百万円）

	前期実績	当期実績	増減
売上高	79,086	81,771	2,685
営業利益	3,932	3,079	△853
経常利益	3,202	5,353	2,151
親会社株主に帰属する当期純利益	2,193	4,212	2,019
売上高営業利益率	5.0%	3.8%	—

営業利益の増減要因(2019年3月)



セグメント情報

単位：百万円

		2018年3月期	2019年3月期	増減
産業素材事業	売上高	40,078	41,107	1,029
	営業利益	1,075	1,104	29
特殊素材事業	売上高	21,977	22,566	589
	営業利益	2,317	1,636	△681
生活商品事業	売上高	17,775	18,132	357
	営業利益	525	280	△245
その他	売上高	5,627	6,935	1,308
	営業利益	273	410	137
消去	売上高	△6,372	△6,971	△599
	営業利益	△260	△353	△93
合計	売上高	79,086	81,771	2,685
	営業利益	3,932	3,079	△853

2020年3月期連結業績見通し

2020年3月期連結業績見通し

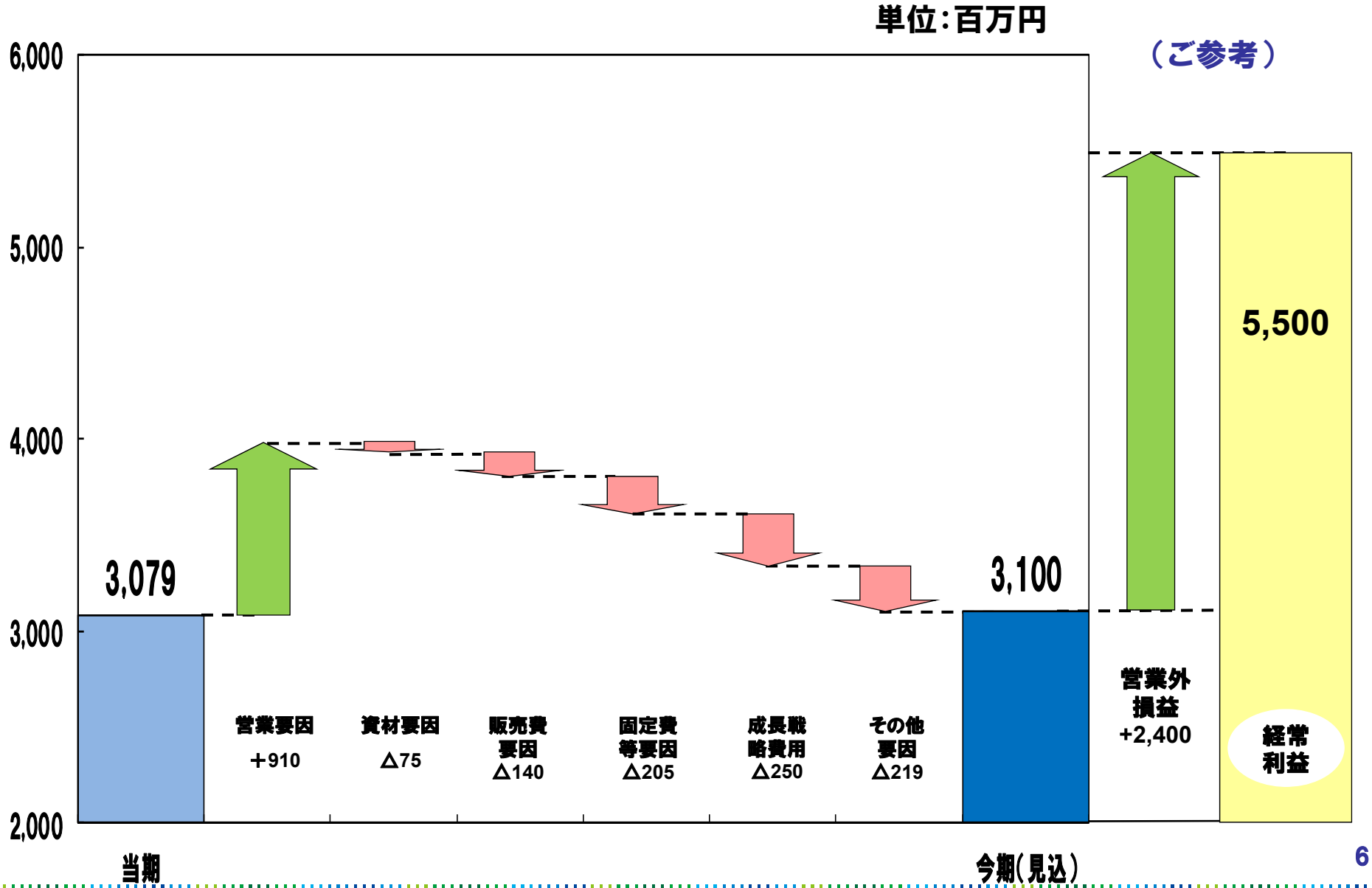
（単位：百万円）

	当期実績	今期見通し	増減
売上高	81,771	85,000	3,229
営業利益	3,079	3,100	21
経常利益	5,353	5,500	147
親会社株主に帰属する当期純利益	4,212	3,900	△312
売上高営業利益率	3.8%	3.6%	―

前提　為替レート　上期110円/US$　下期105円/US$

原油価格(ドバイ)　上期60$/B　下期60$/B

営業利益の増減要因（2020年3月期見通し）



資本政策について

資本政策

資本政策の推進

利益水準の向上に伴う増配

- 安定した配当を継続的に実施（1株当たり配当額50円）
- 2019年3月期は利益の増加に伴い1株当たり配当金を75円に増配。
- 2020年3月期においても1株当たり配当金75円を見込む。
- 収益基盤が拡大していくにつれ、配当性向30％を目線として株主の皆様に還元を図りたい所存。

自己株式に関する基本方針

株主に対する利益還元を経営の重要施策と位置付けて、安定配当を維持しながら、自己株式取得による利益還元も総還元性向を総合的に勘案した上で実施し、取得した自己株式は、希薄化懸念を払拭できるよう10％程度を上限とし超過する部分は消却を検討。

政策保有株式の定期的な見直し

毎年、保有株式の見直しを実施。

保有メリットと資本コストから導く保有コストを比較することに加え、業界動向など総合的判断のもと、保有の有無を取締役会にて決定。

第四次中期経営計画の進捗
（2017年度～2019年度）

NEXT 10

～　次なる成長　次なる挑戦　～

過去の連結数値と今中計（NEXT10）

単位：億円

	第三次中期経営計画期間			第四次中期経営計画期間				
	2015/3期	2016/3期	2017/3期	2018/3期	2019/3期（当期）	2020/3期 見込	2020/3期 中計最終年度目標	10年後の姿
売上高	788	785	777	791	818	850	850	1,200
営業利益	25	38	47	39	31	31	55	100
経常利益	28	39	51	32	54	55	－	－
営業利益率（経常利益率）	3.1%	4.8%	6.1%	5.0%	3.8%（6.5%）	3.6%（6.5%）	6.5%	8.3%
ROE	0.3%	3.9%	5.6%	3.3%	6.1%	5.4%	5.0～6.0%	8.0%
TSR（株主総利回り）	121.3%	162.6%	188.5%	185.9%	188.7%	－	－	－
政策保有株売却額	0	5	11	11	13	－	－	－

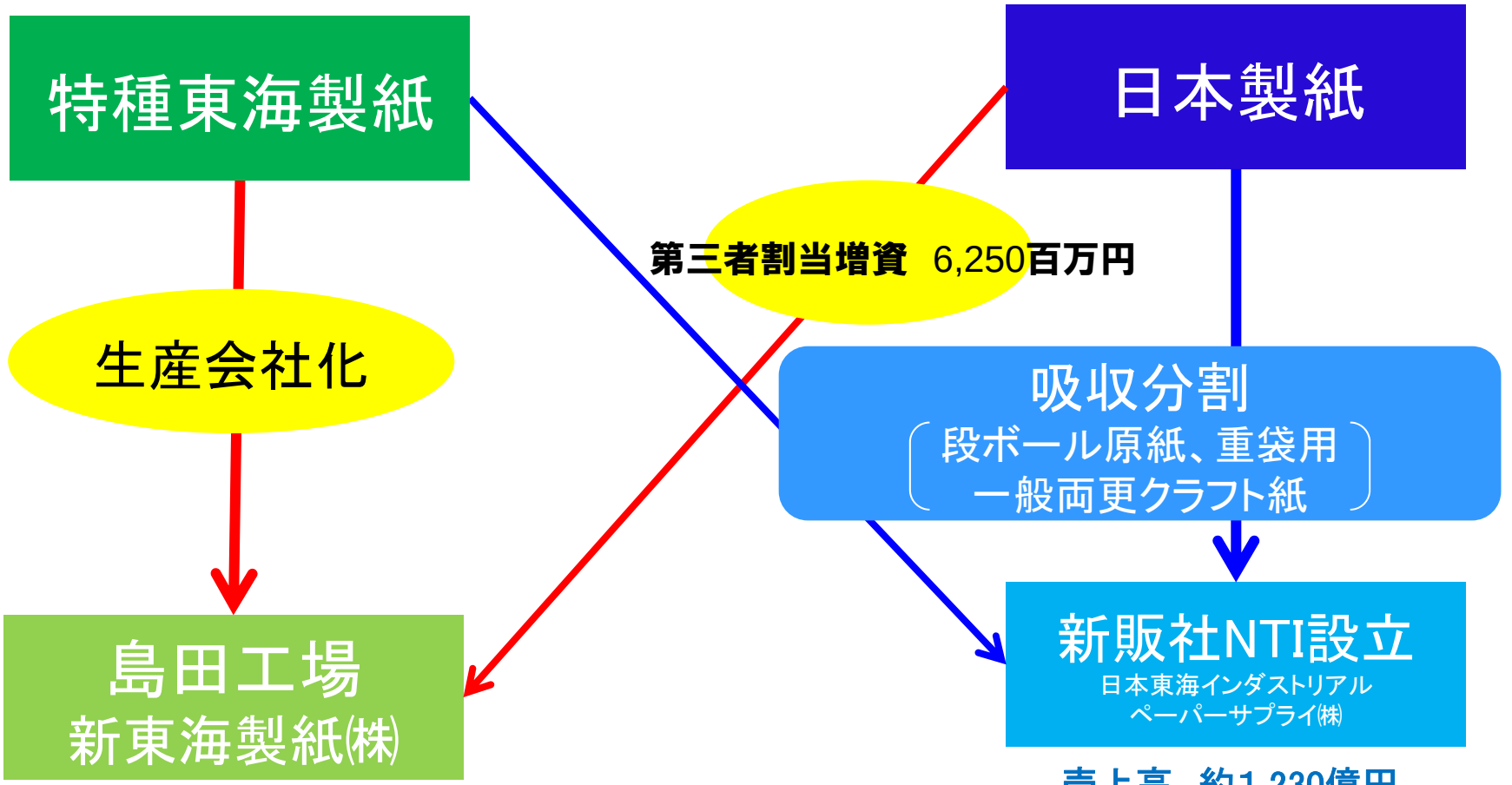
※ TSRは2014/3期末株価を基準に5年分の数値を記載

「基盤事業の強化・変革」進捗状況

産業素材事業Gの基盤強化・変革 ①

産業素材

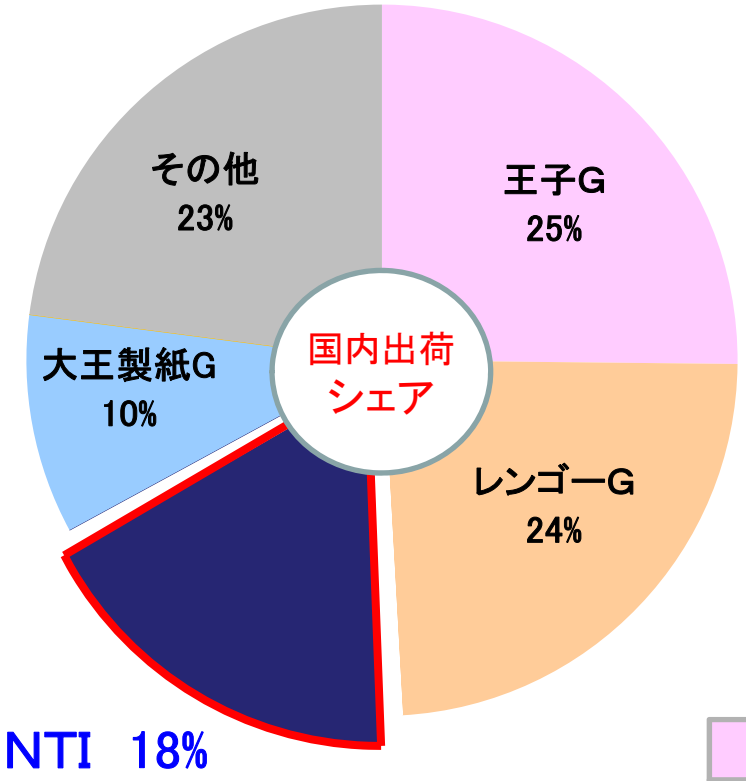
～日本製紙との段ボール原紙及びクラフト紙事業に関する提携～



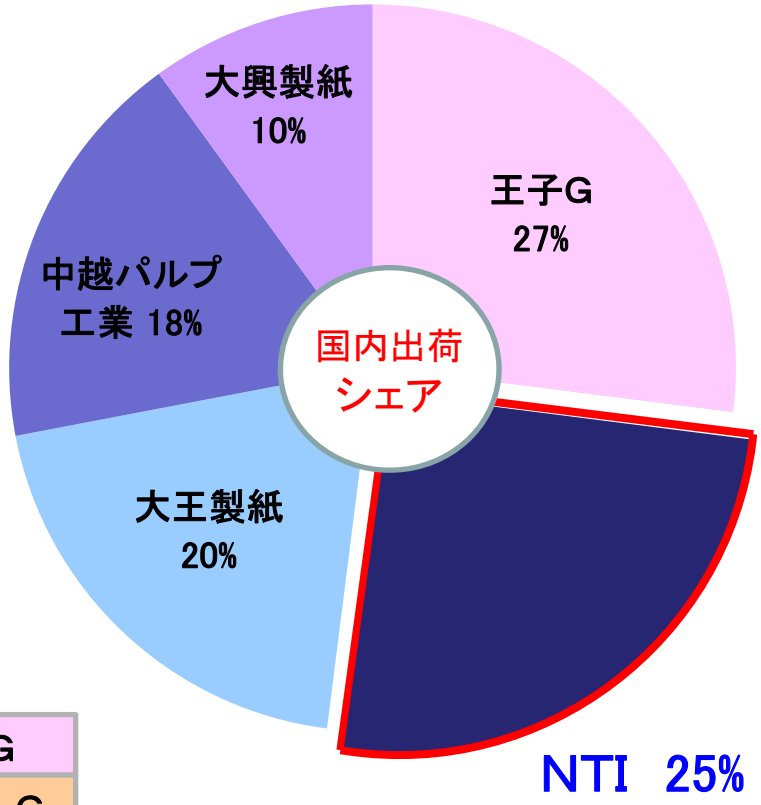
産業素材事業Gの基盤強化・変革 ②
～NTIの市場での存在感～

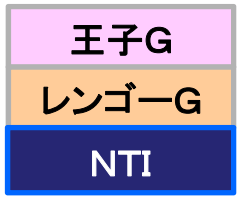
産業素材

段ボール原紙



重袋用・一般両更クラフト紙





※出典：日本製紙連合会報告に基づく
H30年度　国内出荷シェア当社推定値

産業素材事業Gの基盤強化・変革　③

産業素材

日本製紙との提携に伴うシナジーの追求

- 市場での存在感
  - ・ある程度の規模を確保することにより市場におけるキープレイヤーに
  - ・豊富な生産拠点を確保することによる安定供給体制の確立
- 島田工場の設備及び地の利を活かした提携スキーム
  - ・島田工場の競争力向上⇒基幹工場としての存在感アップ
  - ・段原紙生産の順調な増加
- 日本製紙グループの生産体制の再編成に伴うクラフト紙生産量の増加
  - ・島田工場6号機印刷用紙の生産終了と一部銘柄のOEM委託
  - ・日本製紙㈱釧路工場6号機クラフト紙の島田工場6号機への移抄
- 日本製紙㈱との古紙の共同調達開始

⇒安定納入先として利便性を強化することによる古紙の安定調達

⇒調達物流効率化によるコスト削減・調達事務集約化による作業効率化

特殊素材事業Gの基盤強化・変革 ①

特殊素材

NaSFA

① タント増色・厚物化によるファンシーペーパーのテコ入れ

- ファンシーペーパーは出版業界低迷の影響を受けマーケットシュリンクに直面している。
- 主力商品タントの増色・厚物製品の投入によりパッケージ分野の需要をクリエイトすることで、シェアの拡大に繋げる。

主力商品“TANT”のリニューアル

今までのTANT

150色（1987年100色でスタート）

連量180kg（最厚）

増色
増連量

これからのTANT（今年度中に発売）

200色

連量300kg（最厚）

選べるしあわせ。
TANTリニューアル

TANT200 COLORS
TANT KIRA
TANT BOARD-F

監修　顧問デザイナー　廣村正彰氏

TANT KIRA

キラキラと上質な光沢を帯びたTANT

TANT BOARD-F

連量300kg、高級感が求められる
パッケージなどに

特殊素材事業Gの基盤強化・変革　②

特殊素材

NaSFA

②　ガラス合紙改良による基盤強化

- 合紙に対する品質要求はディスプレイ技術の進化と共に厳しくなっており、ミクロンレベルの微小異物混入防止技術の確立による更なるクオリティアップを図り、世界シェアの維持・拡大を目指す。
- 中国を中心とするアジア市場でのニーズを素早く捉え、ソリューションを提供することで、シェアの維持・拡大を目指す。

・当期売上高は上記施策を着実に実行することで堅調に推移した。

・技術・品質・販売の課題をクリアすることで、今後も順調に推移の見込。

③　ガスエンジン設置によるコスト削減

- 特殊紙の主力工場である三島工場に、投資総額11億円（内、補助金3億円）のガスエンジンを導入する。
- ガスエンジン発電出力　7,800kw
- 2019年1月　運転開始

効果　年間　約7,000tCO_2を削減

- 都市ガス購入に伴うコスト増を考慮の上、年間1.2億円のキャッシュメリットを見込む。

生活商品事業Gの基盤強化・変革
～(株)トライフ　技術の応用(横展開)～

生活商品

NaSFA

- 新商品“トイレに流せる！ペーパータオル”
  ⇒2017年9月　販売開始
- 特徴：　濡れた手をふき取れる強度を確保しながらも水解性がありトイレに流せる。

大手航空会社・大手通販会社に納入済み

水解性

- トイレクリーナー用で清掃後にそのまま流せる水解シートを開発中

⇒ 生活用品メーカーおよび業務用品メーカーと開発を継続中

- 手術室床用シートとして開発

○片面は粘着加工　○片面は防汚性不織布

医療用シート向けに開発

相手先PBで採用

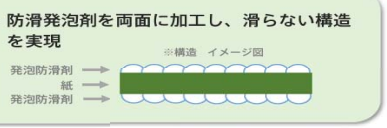
防滑性

- 両面防滑加工を施した製品を開発

⇒ 大手コンビニに番重シートとして納入決定

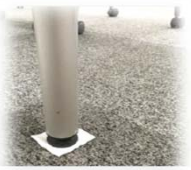
両面に防滑処理を施しています

・防滑発泡剤を両面に加工し、滑らない構造を実現



番重シートに

ランチョンマットに


家具の固定に

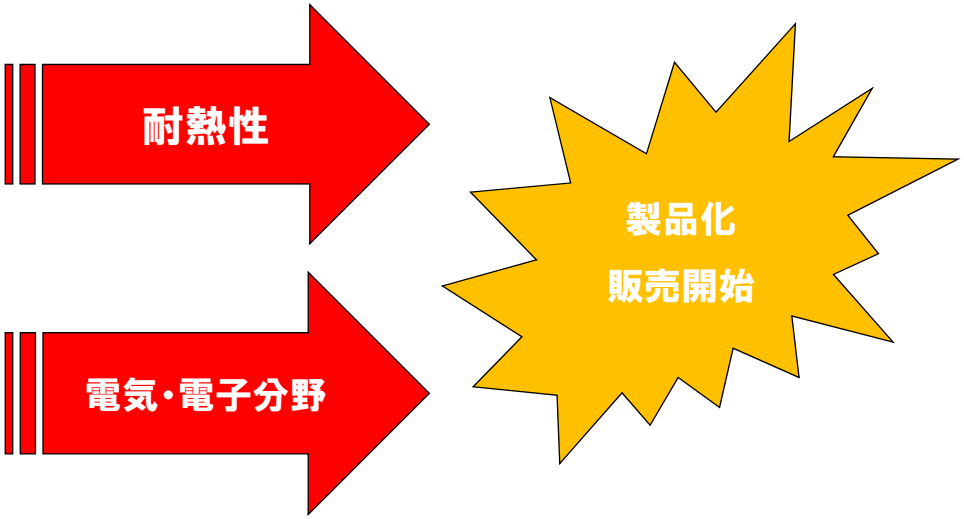
成長戦略について

研究開発の方向性

NaSFA

非セルロース系シート状物の製品化

- 2019年12月上市予定
- 耐熱・電気・電子分野用途
- 5年後 売上30億円を目指す



フィブリック及び派生研究

1）フィブリックは電池メーカー向け性能評価最終段階

2）CNF原料に工夫を加え原料販売を目指す

3）電池分野深耕の為大学研究室へ人員を派遣

偽造防止用紙
～海外に向けた取り組み～

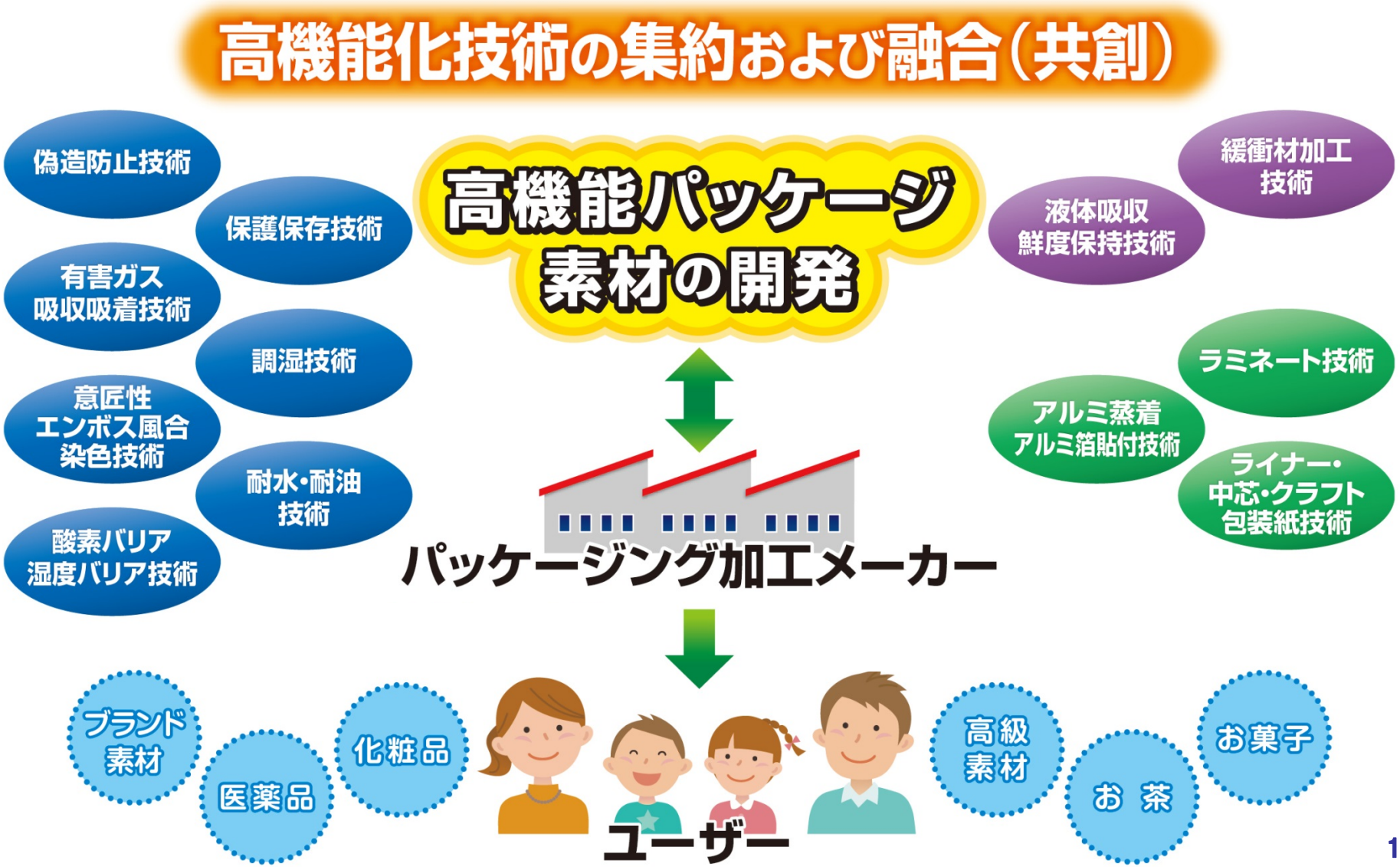
NaSFA

海外での知名度向上

・昨年12月、※偽造防止の国際カンファレンスにおいて、新しい透かし表現について講演。
※High security printing：ベトナム ハノイ開催、政府・民間で約100団体が参加。
国内の民間製紙会社としては初の国際会議発表。
・2019年は横浜にて国際会議が開催予定。再度参加し、知名度向上・顧客獲得を目指す。

高機能(高級)パッケージ戦略

NaSFA



ファンシーペーパー・保護紙のアジア展開

特殊素材

NaSFA

FP中国輸出の拡充

新商品

- 中国富裕層向けを意識し従来の4ブランドに新ブランドを追加
- 更にもう1ブランドを開発中

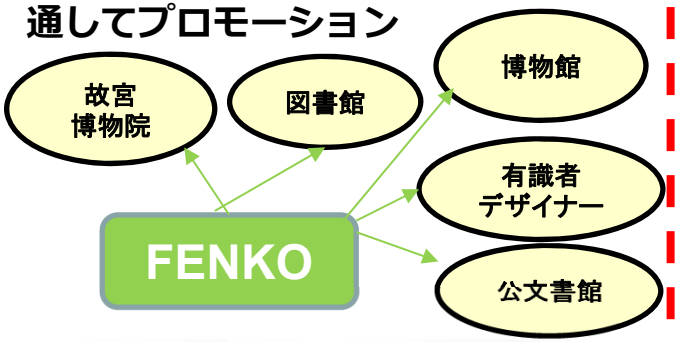
透瓷纸
TOJISHI

ブランド認知活動

- 【LUXE PACK　SHANGHAI】
- 開催期間：2019年4月10日、11日
- 開催場所：中国/上海　上海展覧センター

保護紙の台湾拡販

当社の製品と技術を背景にFENKOを通してプロモーション



中国以外のアジア諸国へ進出

・高級パッケージコンバーターとパートナーシップを結び当社FPのアジア展開を協議中。

年間1,000t
10億円規模以上のビジネスを目指す・

（成長戦略）
環境関連事業セグメント
について

環境関連事業セグメント　①

環境関連

「環境」をキーワードとする事業に更に注力するため、
南アルプス事業本部、特種東海フォレスト、レックスの事業を併せて、
2020年3月期より環境関連ビジネスを事業セグメント化する。

① ウイスキー事業の立ち上げ

② (株) レックス事業の横展開（リサイクル関連新規事業の創造）

③ リニア工事関連での環境保護の徹底

自然環境活用事業
・ウィスキー事業　・観光事業　・山林管理事業　・リニア関連事業
・(株)特種東海フォレストの事業全て

資源再活用事業
・(株)レックスの事業全て

環境関連事業セグメント ②
～ウイスキー事業の開始～

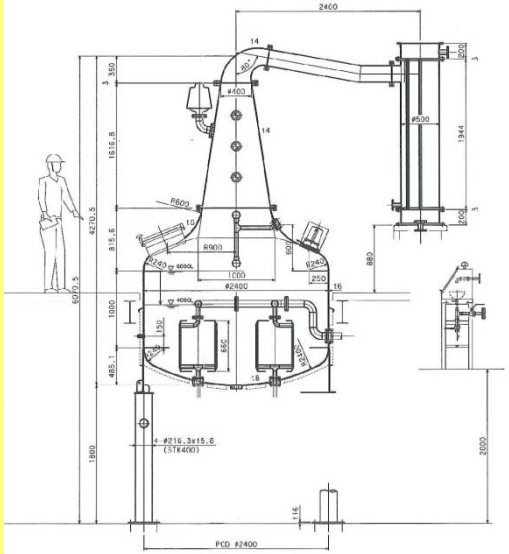
環境関連

内 容

- ◆ ウイスキーは井川社有林の天然水、気候、森林資源を活かすことができる
- ◆ ウイスキーは蒸溜所見学など観光事業との相乗効果が高い
- ◆ ジャパニーズウイスキーは国際的に需要拡大

- 井川社有林内に「井川蒸溜所」を建設
  - 敷地面積：2000平方メートル
  - 蒸溜棟：鉄骨2階建　延べ860平方メートル
  - 熟成庫：鉄骨平屋建　357平方メートル
  - 1バッチ大麦麦芽1トン使用
- 投資額　約10.9億円
- 2020年度からウイスキー製造を開始予定
- シングルモルト長期熟成（7年）以上の本物を目指す

井川蒸溜所完成イメージ



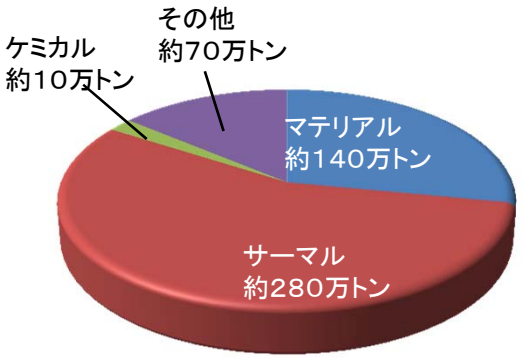
井川蒸溜所の象徴
ポットスチル

環境関連

環境関連事業セグメント ③
～(株)レックスのリサイクルビジネスの拡大～

リサイクル関連ビジネス(新規事業)の模索

国内の産業系廃プラスチック類の発生量とリサイクル状況について
(総量約500万ｔ/2017年)



現状の問題:廃プラの行き場が無い
中国・・・・ 2017.12.31　輸入禁止
マレーシア・・・・運用ベースで輸入禁止
ベトナム・・・・運用ベースで輸入制限
タイ・・・・運用ベースで輸入禁止
ラオス・・・・輸入禁止検討中

国内リサイクルは促進気運あるが、設備投資や許可の問題で追いつかない状況

当社の強み
①RPFの製造　および　RPFの活用(使用)の両方をグループ内で実施している。
②RPF製造企業間のネットワークを有している。
③グループ内に大型排水処理設備を有している。
④一部上場企業として社会的信用力を有している。

新事業の創出に繋げたい！！

RPF事業(従来事業)の拡充

- **長泉物流センター敷地内にRPF工場の新設を計画**
- **2020年3月稼働を目指して準備中**
- **三島工場10号ボイラーへの供給を強化する**
- **廃プラスチックの有効利用を促進し、環境に貢献する**

※長泉物流センター内　建設予定地

- **設備能力:　4.0t/h（1台）　　月間生産量:1,400t/月(稼働3年目計画)**
- **投資金額:約650百万円　　キャッシュメリット:約100百万円／年(稼働3年目計画)**
- **建設地:長泉物流センター敷地内**

（ご参考） NaSFAについて

NaSFAとは

当社の商品開発に係る技術力を4つに分類したもの。
それぞれ以下の意味を表す。

① Na : Nano technology （ナノテクノロジーから拡がる新たな可能性）
⇒紙の領域を超えたシート状物の開発

② S　: Security （偽造防止技術によるグローバル展開）
⇒黒すかし技術、最新スレッド挿入技術等を用いた製品を投入
⇒2020年東京オリンピックでの採用に向けた新規要素技術の開発

③ F　: Fusion （技術融合による新市場の創造）
⇒各事業部、関連会社の強みとなる差別化された技術を融合

④ A　: Art （新規加工技術による挑戦）
⇒新加工技術による新たな機能付与とコストの削減

TOKUSHU
TOKAI
PAPER

お問い合せ先：財務・IR室

〒104－0028

東京都中央区八重洲2－4－1
ユニゾ八重洲ビル

Tel　03－3281－8581

Fax　03－3281－8591

本資料に掲載しております当社の計画および施策などは発表日時点において把握できる情報から得られた当社の経営判断に基づいております。様々なリスクおよび不確定要因により、実際の業績と異なる可能性がございますことを、予めご承知おきくださいますようお願い申し上げます。